

1月／マングローブ植林の開始



養殖場の周りの植林の様子



マングローブの子どもたち

苗床ですくすくと育った苗木達がいよいよ植林サイトにデビューしました。これまでに、当社からの支援により海岸線や養殖場の周りに合計35,000本のマングローブが植えられました。

1月／マングローブの森再生フォーラム設立



11月に引き続き、関係機関が参加したワークショップでは、持続可能なマングローブ再生・保全のための協働フォーラムの設立が約束されました。今後、どのような協働体制、活動が必要になるか具体的な話し合いが始まります。

【写真】マングローブの森のための協力を話し合う関係機関

4月／スマランマングローブ協働作業部会 (KKMKS) の設立

2009年度の連続ワークショップの結果を受け、正式にマングローブ協働作業部会が立ち上がりました。作業部会には、マングローブに関心を持つコミュニティ代表、スマラン市政府の関係局、大学、NGOなど様々なステークホルダーが平等の立場で参加し、少なくとも2ヶ月に一回定期会合を持ち、マングローブ保全に関する情報を集約すると共に、連携や具体的な保全方法、政策について協議していきます。

3月～7月／マングローブの成長管理とエコツアー



成長するマングローブ (植林後約6ヶ月)



エコツアーによる植林の様子

昨年度植林したマングローブの子どもたちは、異常気象にも耐えて元気に育っています。

3月と6月には、日本からエコツアーのお客さんも訪れ、コミュニティと一緒に植林を行いました。

8月～10月／苗床設置



今年度の植林用の苗床づくりが始まりました。昨年度の経験を経て、より効率的な苗床栽培方法に発展しています。

【写真】 苗床づくりの様子

11月～12月／生物調査とマングローブ協働作業部会



より生態系に優しい植林と護岸整備の方法を研究するため、現地の大学（ディボネゴロ大学）の協力得て、マングローブ植林地の生物調査を実施しました。2010年4月に発足した「マングローブ協働作業部会」は、2ヶ月に1度開催され、上記のような生物調査結果等、データや情報を共有し、スマラン全体でマングローブ保全を促進するためにコミュニティやNGO、大学や地方政府が連携しています。

【写真】 生物調査をする専門家